

令和5年度第1回 青森市障がい者自立支援協議会 議事要旨

日時 令和5年5月24日（水）10:00～12:00

場所 青森市総合福祉センター2階 大集会室

出席者 (委員) 中村委員、高橋委員、常田委員、加藤委員、佐藤委員、粕谷委員、平野委員、高杉委員、中野委員、西脇委員、藤川委員、狭間委員、野呂委員、阿保委員、對馬委員、長谷川委員 (計16名)

(欠席：田中委員、船水委員、小山田委員、谷川委員)

(事務局) 福祉部 岸田部長、大久保次長

障がい者支援課 竹谷課長、山口主幹、赤平主幹、斎藤主幹、齋藤主査、竹内主査

1 開会

2 新委員紹介

3 福祉部長あいさつ

4 事務局自己紹介

5 報告事項

(1) 相談支援体制の強化・充実に向けた主な取組について

「令和5年度第1回青森市障がい者自立支援協議会資料」内1～2ページの「相談支援体制の強化・充実に向けた主な取組について(令和4年度実施報告)」について事務局担当者より報告。

→委員からの確認事項等なし。

6 協議案件

(1) 地域生活拠点について

「令和5年度第1回青森市障がい者自立支援協議会資料」内3ページの「地域生活支援拠点等有する機能の充実」について事務局担当者より説明。

「令和5年度第1回青森市障がい者自立支援協議会資料」内5～12ページの「地域生活拠点部事業に関する事業報告」、13～16ページの「障がい者支援施設幸養苑地域生活拠点部に関する事業計画」について実施事業者の社会福祉法人清養会障がい者支援施設幸養苑苑長(当協議会中村委員)から実施状況等について説明。

(質問事項)

委員：レスパイトケアとはどう意味か？

→中村委員：介護者の休息を図るために本人にサービスを提供すること。

7 各分会での協議及び各分会からの報告

※ 各分会での協議後、協議内容を分会リーダー等から報告

【みんなの未来分会】

(委員) 自立支援協議会に所属する当事者の方に普段行っている取組や課題について話をしてもらい、障がいのある方が地域で暮らすための課題等について意見交換を行った。当事者団体においては、コロナ禍で活動できていない、所属する当事者の高齢化が課題になっているとの意見があった。ピアサポーターの活動については、勉強会を継続的に行ったり雇用につなげていきたいという意見があった。今後について、当事者の高齢化の問題と障がいの程度に関わらず住み慣れた地域で暮らしていくための話し合いや、ピアサポーターの活動する体制づくり、福祉の現場の人材不足に関して、福祉を目指す人たちが増えていくようなアプローチを行い、人材育成の取り組みを進めていく必要があるのではないかという意見がだされた。また2026年全国障害者スポーツ大会において、障がい者自立支援協議会でも何かサポートできないかという意見があり、今後分会内で意見交換を行っていききたい。

【就労支援分会】

(委員) 会長から就労選択支援というサービスができるためその勉強をしていかなければならないという話があり、分会においても同じ意見であり、これから新しくできるサービスの勉強を事前に関係機関で行っていききたいと考えている。実施の際は、就労継続支援A型・B型、就労移行支援の事業所など対象になりそうな事業所を集め勉強会を考えていききたいと思っている。

その他、現在、就労継続支援A型・B型は市内にたくさんあるが、休止中のところもある。職員不足により休止なのか、その理由も把握していかなければ、ただ施設を増やしてもいいという話ではない。例えば、定員12名で登録者30名いても1日の定員を満たしていないという場合もあるかと思うため、そういった部分について具体的な実態調査を行い明らかにしていければ良いと考えている。その中で、サービスを使ってる方がどれくらいいて、施設数はこれで適当なのかということ等も含めて調査して行ければと思う。

8 その他

9 閉会